

～幼保小の子どもたちの学びと育ちをつなぐ～

架け橋通信



第18号

令和8年6月発行

京都市教育委員会 学校指導課
幼保小の架け橋プログラム担当

TEL:075-222-3746

実践推進校 24 校 を中心に架け橋プログラムを推進!!

今年度は、新たに 11 校を実践推進校として指定し、下記のとおり計 24 校を決定しました。これら 24 校を中心に、各小学校ブロックにおいて幼保小の架け橋プログラムを積極的に推進します。また、推進校が所在する行政区・支部の核として、架け橋プログラムの成果や意義を広く発信・共有し、京都市全体における取組の一層の充実・発展を図ってまいります。

行政区	支部	推進校	行政区	支部	推進校	
北	北	鷹峯小学校	山科	山科	音羽川小学校	
上京	上京	新町小学校	右京	右京北	☆常磐野小学校	
		☆京極小学校		右京南	西京極小学校	
中京	中京	洛中小学校		西京	西京東	☆西院小学校
		御所東小学校				☆安井小学校
下京・東山	下京・東山	☆御所南小学校	西京西	川岡東小学校		
		洛央小学校		嵐山東小学校		
南	南	☆七条第三小学校	伏見	伏見中	深草小学校	
		吉祥院小学校		☆砂川小学校		
左京	左京北	明德小学校		伏見東	☆北醍醐小学校	
	左京南	☆大原小中学校	伏見西	伏見南浜小学校		
		☆修学院第二小学校				

☆印は、令和8年度新規実践推進校（11校）

○実践推進校の取組内容

- ・幼保小の架け橋プログラムの推進に向け、幼保小連携接続主任を中心に学校全体での取組を進め、「主体的・対話的で深い学び」の実現を図る。
- ・実践推進校間で情報共有を行い、各校における取組の活性化を図る。
- ・スタートカリキュラムの実践を全市に公開し、入学式後の授業の在り方を提案する。
- ・実践事例を蓄積するとともに、その成果や課題を支部の小学校等へ広く発信する。（令和8年度は、全市を対象とした実践報告会の実施を計画している。）

令和8年度 京都市としての取組

京都市教育委員会では、幼児期から小学校への円滑な接続を目指し、京都市における幼保小の架け橋プログラムの推進に向けて、今年度、以下の取組を計画しております。

○スタートカリキュラムの授業公開・研修会

- ・R8 4月～5月に推進校9校が公開

○各種研修会

- ・子育て講座（5/23）
- ・幼保小接続講座（6/1・12/7）
- ・第5回共同機構研修会（7/30 共催事業）
- ・実践推進校研修会（実施日は未定）
- ・管理職悉皆研修会（11/16）
- ・幼保小接続研修会（幼稚園公開保育 1/27）

○幼保小の架け橋コーディネータの派遣

- ・全市小学校区が対象

○全市小学校の取組状況調査（12月頃実施）

○架け橋通信の作成・発行

○小学校長会（臨時委員会）との連携

○推進校の取組推進のための支援

○フェーズ1校（R7調査）への支援

- ・現状把握とアドバイス

京都市初!! スタートカリキュラムの授業公開!!



今年度9校の実践推進校において、京都市として初めてスタートカリキュラムの授業公開を実施しました。

1年生の登校後の朝の様子や朝の会、読み聞かせ、歌やダンスなど、幼児教育における学びや育ちを生かしながら、子どもたちが安心して自己発揮しながら小学校生活に慣れていけるよう工夫された取組が見られました。

ある学校では、朝の準備を終えた子どもたちが、新設された「架け橋ルーム」に集まり、カプラで遊んだり、友だちと会話を楽しみながら絵本を読んだりする姿が見られました。子どもたちは、「架け橋ルーム」という安心して過ごせる居場所を得て、気持ちを落ち着けながら一日をスタートしています。また、遊びを通して友だちや教員との関わりが生まれ、対人関係の広がりやコミュニケーションの向上にもつながっています。

さらに、近隣の幼稚園の先生を招き、読み聞かせを行う機会を設けている学校もありました。子どもたちは、親しみのある先生の語りにわくわくした表情で耳を傾け、「おもしろい」「自分もやってみよう」といったつぶやきが自然に聞かれるなど、話に引き込まれている様子が見られました。絵本の内容は、次の授業へともつなげる内容で、双方の先生たちの連携も伺えます。顔なじみの先生の存在が安心感につながり、落ち着いて過ごす姿も見られるなど、幼児期からの人とのつながりが、小学校生活への安心感へとつながっていることがとても感じられます。



このほか、弾力的な時間割の設定や、教科を横断した合科的・関連的な指導も行われており、子どもたちの興味・関心を大切にしたい学びの場が工夫されていました。

これらの取組は、幼児期の育ちと小学校教育をつなぐ重要な一歩であり、今後さらなる充実が期待されます。

コラム

なかにしサンの 幼分補給

実践推進校9校がスタートカリキュラムの授業公開をして下さいました。朝の登校後から授業に入るまでの楽しい時間の工夫や合科・関連的な授業の工夫、架け橋ルームの新設など各校が様々に取り組んで下さっていました。5月の体育の授業を少し紹介します。

架け橋期の子どもは、活動的です。幼児期の運動指針、一日60分以上の運動遊びが推奨されてからも久しいのですが、近年は、ますます難しい状況です。その意味でも体育の授業の運動量つとでも大事ななと思っせて見せていただきました。動物になって、跳が、這う、走るなどの動きの場を自分たちで構成し、十分に体を動かして、遊んでいました。紅白球を爆弾に見立てて丁寧に並べ、場を作り替え、踏まずに歩くという繊細な動きに変えたり、十分に体を動かしたらしっかり先生の話を聞いたり…。幼児期に大切にしている「なりきる」「見立てる」「動と静のリズムを組み合わせる」という授業でした。重い踏切板も二人で運ぶ姿。1年生は0からの出発ではなく有能であることを確認しました。推進校2年目。今年度は、行き渋りもなく、元気な1年生だそうですね!!



蛇になってくねくねと動く



中西 昌子(なかにし しょうこ)

京都市教育委員会 学校指導課 参与
市立小学校教諭、幼稚園教諭・教頭、
竹田幼稚園長、市教委首席指導主事を
経て、平成三十年から現職。